

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名** ももたろうの郷 なかよし苑

日付 平成 21年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 1. 評価結果の概要

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームのリビングルームに入ると、その周囲の壁が利用者の作った作品のギャラリーになっている。何か訪問する毎に利用者が、はり絵であったり、折紙であったり、塗り絵等の作品を一生懸命作っていることが分かる。訪問時でも一人で、二人組でというように熱心に取り組んでいた。職員が下絵を描き、それにちぎった小片を貼り巡らせていく。折紙を混ぜていく。職員も作っている。その中にもすごい大作に取り掛かっていた。閑谷学園の紅葉風景を再現しているが、大作を小ブロックに分けて部分を格子に割り付け、そこに色々な色紙の小片を貼っていき、全体で組み立てれば壁画になっている。今、四分の三くらいの出来栄で、完成が待たれる。季節的なものも含めて、1ヶ月毎に作っているそう。おとぎ話の中から、童話から、干支を表わす動物、七福神の縁起物、節分やお雛様等テーマは多彩にあった。「毎日作品を作っているんですか」と聞くと、「ほんまや、毎日忙しいのよ。家に居た時はこんなこと何もしていなかったんやけど、ここへ来てから始めたんよ。これどないしたらええんやろかと思ひながらするのは面白い。同じ絵でも皆色を塗ったり、貼ったりしたら、皆違うのが出来るもん」「どげんでも良いのじゃけど、これも工夫がいるからな～。頭使うんよ」「ここの人皆色んな事するよ。皆同じじゃないからな～」「私はもともとこんな事するの苦手じゃったんやけど、やってみゃ面白い」と皆さんが言いながら、丁寧に貼っている。「そろそろ、きりのいいところで終わりにして、ご飯にしませんか」と職員に促されて手を洗いに立って行った。「やりだしたら中々止められないのですよ」と職員が片付けながら教えてくれた。このホームの利用者のする一大作業であると共に楽しみ励みの生活リハビリでもある。

昼食後、一休みしてから、「今日は暖かいから、畑に行って玉ねぎに肥料やりませんか」と管理者の誘いでホームの前にある畑に出向いた。ホームの立地している土地の周辺は、母体の所有している土地があり、利用者が外で活動できる工夫をすると、もう少し活気づくかも知れない。畑の大根を抜いて今晚のご飯のおかずになるのかも知れない。

このホームのもう一つの特長は、母体の整形外科医院のリハビリセンターが活用できることである。月2回は一日利用者全員でリハビリセンターに行って、リハビリしたり、その利用者と一緒に楽しんでくる。又、理学療法士から個別のリハビリ指導が受けられる。

このようにホームでの生活の中から個別ケアをして、その人らしい生活が送れている。

### 特に改善の余地があると思われる点

運営委員会のメンバーは町内会長、民生委員にお願いしているが、利用者と家族の代表も加わり、地域の老人会や婦人会、幼稚園や学校の園長や校長など広い範囲から委員として参加してもらっていくと、運営委員会も活性化するだろうと思う。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：理念は開設の時に定めており、事務所に掲示してあり、職員ミーティングの時に具体的にケアに生かすための話し合いをしているので改善の必要はない。</p> <p>2. 全体的に見て…：「人間としての尊厳を大切に、その方が歩んでこられた人生そのものを尊重し、その人らしい生き方が送れるよう支援していく」を理念としている。目的として「家庭的な雰囲気的环境下で残存能力を生かし、それぞれの役割を持って安心した日常生活を送りながら、生活の質を育てていく」である。ホームで利用者が毎日取り組んでいる作品づくり等を見ると、この理念にある志を現実の生活に生かしていることがよく分かる。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：利用者が作った作品をリビングルームや居室に貼り、そして、それぞれが自分らしく生活しているのが、改善事項は特にない。</p> <p>2. 全体的に見て…：平成12年開設した当初に建てた建物なので、グループホームとしてまだ定着していない時代のものであった。不便なところも多いが、リビングルームは利用者がしっかり活用している。食堂部分とソファのある寛ぎ部分をそれぞれ好みの場所として活用されていた。個室は広いスペースが取っており、利用者はベッドやロッカー、机、椅子等を持ち込んで、ゆったりした自分の部屋をつくっている。閑谷学園と赤黄色の紅葉風景を貼り絵で部屋の中に壁画を構成していた。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：職員数は常勤7名、非常勤1名の8名が定着しており、昼間は1対3の配置をしている。職員は安定している。管理者が赴任して2年余りとなり、管理者の思いがケア及びサービスに色づいてきた。改善事項はない。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者の表情が明るく生き生きとなってきたことである。職員も20～30代の人が多いので、職員のチームワークも良く明るさが利用者にも浸透してきている。利用者との会話も弾んでいる。「明日から春じゃ。節分じゃから立春じゃ。春じゃ云うてもな～。まだ寒いわ」。額にアイスノンをつけている人「頭が痛いんですか?」「そうじゃ前からじゃ。歌と字書くのは好きじゃけど、絵には興味無いなあ。」「皆と仲ようせにやいかん」と口癖の人に「あればっかり云うと。まあ皆ええ人ばかりじゃけど。」「ボードの飾りは毎月変わる。器用なんよ、みんないつも感心する。来月はどうなるか楽しみじゃ」等、あちこちから会話が交わる。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：地域の人々との交流を促進していこうと意欲を見せている。運営推進会議をもっと積極的に開催して、地域とのつながりのきっかけをつかもうとしている。</p> <p>2. 体的に見て…：職員の質の向上については母体共に力を入れていて、外部研修への参加を促したり内部研修をもっと積極的に行っていこうと考えている。新人の研修は母体の方で行っている。</p> <p>利用者とのコミュニケーションやドライブ等の外出も積極的に行っている。行事等の特別食は利用者と一緒に調理して食べる。</p>		